

令和2年度第1回鎌倉市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和2年(2020年)10月14日(水)午後1時から午後1時53分まで
- 2 開催場所 鎌倉市役所第3分庁舎1階 講堂
- 3 出席者 松尾市長、岩岡教育長、朝比奈教育委員、齋藤教育委員、下平教育委員、山田教育委員
- 4 関係者 共創計画部長、教育部長、教育部次長
- 5 事務局 共創計画部次長(兼企画計画課長)、企画計画課課長補佐、企画計画課主事
教育部次長(兼教育総務課担当課長)、教育総務課課長補佐、教育総務課担当係長
- 6 傍聴者 7名

【市長】皆様、本日はご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。

ただ今から、令和2年度第1回鎌倉市総合教育会議を始めます。

本日は、昨年度、皆様との議論を踏まえて策定しました「鎌倉市教育大綱」において重点的に取り組むこととした施策について、及び学校施設の計画的な整備について、皆様方と議論を重ねてまいりたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

そして、傍聴にお越しいただきました皆様、ありがとうございます。この会議の傍聴につきましては、鎌倉市教育委員会傍聴規則を準用いたします。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは事務局より、本日の資料などの確認をお願いします。

【事務局(共創計画部次長)】共創計画部次長の持田でございます。

それでは、最初に配布資料の確認をさせていただきます。

まず、令和2年度第1回鎌倉市総合教育会議の次第です。次に、資料1といたしまして、「鎌倉市教育大綱における重点的に取り組む施策に係る関連事業一覧」、資料2といたしまして、「鎌倉市教育大綱における重点的に取り組む施策に係る関連事業について」、最後に資料3といたしまして、「学校施設の計画的な整備に向けて」となります。

加えて、追加資料としておりますが、「鎌倉市における自治体内部のデジタルトランスフォーメーションについて」を、また、参考資料として、昨年度の総合教育会議の審議を経て策定した令和2年度から令和6年度の教育大綱のリーフレットも配付しております。

以上、資料としては6点でございます。お手元でございますか。

なお、今後、ご発言に当たっては、マイクをご使用いただきますようよろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

【市長】 それでは、会議次第にあります「教育大綱の推進について」を議題といたします。事務局から説明をします。

【事務局(共創計画部次長)】 まず、資料1「鎌倉市教育大綱の重点的に取り組む施策に係る関連事業一覧」をご覧ください。

昨年度の総合教育会議の審議を経て策定した令和2年度から令和6年度までを期間とする鎌倉市教育大綱に定める「期間内に重点的に取り組む施策」として掲げた4つの施策と、令和2年度から令和7年度の6年を期間とした第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画実施計画に定める事業との関係性についてまとめたものを一覧化したものが資料1となります。

資料1の左側の「重点施策」の欄が教育大綱に定める4つの施策、右側の「事業名」の欄に施策に関連する基本計画実施計画に定める事業名を示しています。

資料2「鎌倉市教育大綱の重点的に取り組む施策に係る関連事業について」をご覧ください。実施計画の事業内容の概略を示し、教育大綱に定める4つの施策の関連性を説明している資料となります。

こちらの資料2に示す重点的に取り組む施策の主な内容について、施策ごとに市長部局所管部分・教育委員会所管部分の順に説明してまいります。

まず「1 子どもたちが夢を持って学べる教育の推進」についてです。

こちらの施策に関しては、市長部局所管部分の実施事業で強い関連性を持つ事業はありません。

【事務局(教育部次長)】 教育部次長の茂木でございます。よろしくお願いいたします。

教育委員会所管部分の「1 子どもたちが夢を持って学べる教育の推進」に係る事業としては、教育相談員やスクールソーシャルワーカー等を有効に活用し、関係機関と連携して、いじめ及び不登校等の問題解決に努めることを目的とした「相談室事業」、特別な支援を必要とする児童生徒の教育の場の充実を図ることを目的とした「特別支援教育事業」、などが具体的な取組として紐づく整理しております。

【事務局(共創計画部次長)】 続きまして、「2 教育環境のさらなる充実と学校施設の計画的な整備」についてですが、こちらの施策に関しても、市長部局所管部分の実施事業で強い関連性を持つ事業はありません。

【事務局(教育部次長)】 教育委員会所管部分の「2 教育環境のさらなる充実と学校施設の計画的な整備」に係る事業としては、今後の情報化社会で必要とされる情報活用能力を身に着けた児童生徒を育成するため、文部科学省の打ち出す「GIGA スクール構想」に対応した市立小中学校の教育環境の整備・充実に努めることを目的とした「ICT 教育環境整備事業」、学校施設の老朽化対策、トイレ環境をはじめとする各種設備の更新及び図書室の冷暖房設備設置などの教育環境の改善を図る「小学校施設整備事業」及び「中学校施設整備事業」、保護者や地域の人々が学校運営に参画することにより、学校・家庭・地域が一体となってより良い教育を実現するための「コミュニティスクール整備事業」、などが具体的な取組として紐づく整理しました。

【事務局(共創計画部次長)】 続きまして、「3 子どもの成長に合わせた切れ目のない支援の充実」に係る市長

部局所管の事業としては、多様化・複雑化する子育てニーズに対応した切れ目のない支援を行うため、関係機関との連携を強化し、妊娠期から子育て期にわたる相談機能等の充実を図るための「母子保健事業」、子どもが所属する集団に必要なサポートを受けることができるよう、幼稚園・保育園等において発達支援の中核となる職員を「発達支援コーディネーター」として養成や家族支援プログラムを実施することで保護者同士がサポートしあえる仕組みづくりを進める「地域における障害児支援体制整備事業」、発達障害の理解促進と地域における身近な支援者の育成を目的としたサポーター養成講座を実施し、修了者がボランティアとして支援が必要な子どものサポートを行う体制を構築することで、発達障害等支援を必要とする児童が地域で生き生きと生活することができる環境づくりに取り組む「発達支援サポートシステム推進事業」などが具体的な取組として紐づく整理しました。

【事務局(教育部次長)】 この施策に係る教育委員会所管の事業としては、学級介助員、スクールアシスタントの配置により、また、特別支援学級を全校に設置することにより、特別な支援を必要とする児童生徒の教育環境の充実を図る事業である「特別支援教育事業」などが具体的な取組として紐づく整理しました。

【事務局(共創計画部次長)】 最後となります「4 地域の特色を活かした郷土学習の充実」に係る市長部局所管の事業としては、鎌倉の文化の質的な向上及び豊かな市民生活の創造を図る「文化行政推進事業」、市内の小・中学生に鎌倉彫の体験教室や魅力を伝える講座等を行っている「伝統鎌倉彫振興事業」などが具体的な取組として紐づく整理しました。

【事務局(教育部次長)】 この施策に係る教育委員会所管の事業としては、能狂言鑑賞・体験教室を開催し、本物の能狂言を鑑賞することで、子ども達が伝統芸能に興味を示し、魅力を味わうだけでなく、礼儀作法も学び、鎌倉の歴史伝統に誇りを持つ教育を行うことを目的とした「教育支援事業」、市民等の学習・交流の場としての積極的な施設運営を行う「鎌倉国宝館管理運営事業」及び「鎌倉市歴史文化交流館管理運営事業」、児童・生徒の学習意欲を高め、確かな学力の向上を図るため、教育課程及び児童・生徒指導等の課題について、企業や各種検討機関等とも連携しながら、先進的な分野での教育の充実を図る「小学校研究・研修事業」及び「中学校研究・研修事業」が紐づく整理しました。

【事務局(共創計画部次長)】 概略とはなりますが鎌倉市教育大綱に定める「期間内に重点的に取り組む施策」と第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画実施計画に定める事業との関係性の説明は以上となります。

【市長】 事務局からの「教育大綱の推進について」の説明が終わりましたが、議論に入る前に、今回の教育大綱期間では、文部科学省が進める「GIGA スクール構想」が大きく関連してくると考えられ、この局面には、鎌倉市が進めるデジタルトランスフォーメーションへの考え方も影響してくるものと考えます。従いまして、鎌倉市のデジタルトランスフォーメーションへの考え方について説明をさせていただきます。

事務局から説明をお願いします。

【事務局(共創計画部次長)】 鎌倉市における自治体内部のデジタルトランスフォーメーションについて説明します。

最近、各種のメディア等の中で「DX」という単語を目にすることが増えてきています。この「DX」ですが、「Digital

Transformation」という言葉を省略したもので、ただ単に直訳すると「デジタルへの変換」ということになります。この言葉は、2004年にスウェーデンのエリック・ストルターマン教授という方が提唱したのですが、その時には「ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる。」という非常に抽象的な意味で使用されていました。

その一方で、近年の日本の変化、例えば少子高齢化によって労働人口も減少しつつあり、企業競争力が縮小していくのでは、という危機感から、ICTの活用によりビジネスモデルを変革し、企業が変わっていく必要があることを説いたのが、経済産業省が2018年に発表した「DXレポート」です。

お手元の資料には、そのDXレポートで掲げられた「DX」の定義を抜粋しております。おそらく、日本でもっとも一般的に捉えられていると思われる定義ですが、これはあくまでも民間企業の立ち位置で定義しているものといえます。

しかし、地方自治体としても、社会の変化に的確に対応していかなければならない、DXを推進しなければならない、ということについては、民間企業と全く同じです。

そこで、鎌倉市ではDXの目的を「競争上の優位性を確立すること」ではなく、「共生社会を構築するための行政サービスの提供を行うこと」と捉えて、推進をしていきたいと考えています。このデジタルトランスフォーメーションですが、よく勘違いしてしまうのは「ICTの活用」による業務の効率化と一緒ではないのか、ということです。

近年では、コンピュータの性能や通信の速度等も著しく向上してきたことを背景として、AIやIoT等の多様な技術が劇的に進化しています。こういった技術を活用することで、業務を効率化することを、よく「ICTの活用」呼んでいます。ICTを活用することで、業務全体の中で滞っている作業、手間がかかっている作業を部分的に取り出し、適切な技術を用いて作業の自動化や省力化を行い、結果として業務全体の効率化につなげることができます。

それに対して、デジタルトランスフォーメーションのアプローチは、業務に必要な情報がそもそもデジタル化されていることを起点として業務全体の流れを見直し、他の業務との整合性や重複していないか等に踏み込んで検討していきます。これは必ずしも技術ありきではなく、場合によっては組織の意思決定のあり方や組織構造にも検討が及ぶ可能性があり、組織全体の文化を変えていくことにもつながっていきます。

このようなデジタルトランスフォーメーションをどうやって進めるか、ということですが、最後は人財確保の問題に帰結すると考えています。ICTの知見ももちろん必要ですが、それよりも変化を恐れずに業務のあり方をゼロベースで考えることができる強いマインドを持っている、そしてトライ&エラーを積み重ねながら成長していくことができる人財の確保・育成を目指していきます。

【市長】 ただ今のデジタルトランスフォーメーションに関する説明も含めまして、事務局からの説明について、ご質問などはございますか。

ご質問がなければ、「教育大綱の推進について」、今後、取り組む内容、方向性などについて、議論を深めたいと思います。委員の皆様方からご意見などをお伺いしたいと思います。

【下平委員】 前回までの総合教育会議で教育大綱の重点施策について話し合い、今回それぞれの重点施策をどの部署が取り組むか一覧表で分かりやすくまとめていただきありがとうございました。しかし、前回重点施策をまとめたときから、世の中が全く変わってしまいまして、一般社会もリモート化が当たり前になり、GIGAスクール構想も前倒しになりました。それに伴い、教育大綱を大幅に見直さなければいけないと一度考えましたが、改めて見直してみても、重点的に取り組む施策に関しては今後変革に伴う内容というのは全体的に網羅されていると思いま

すので、根本的に見直す必要はないと思いました。

ただ、先ほど一覧表と関連する施策の関連性を説明していただきましたが、多くが今現在行っているという標記になっていたと思います。例えば「子どもたちが夢を持って学べる教育の推進」には、教育委員会の事業しかあがっていませんが、教育委員会だけで成し遂げられるものではないし、GIGA スクール構想でも鎌倉市全体の考え方の変革も必要だし、大人たちの変革、大人の成長がまずは重要だと思います。「教育環境のさらなる充実と学校施設の計画的な整備」についても現在は教育部が中心に書かれていますが、とても教育委員会だけでできる仕事ではありません。子どもに安全な環境を提供することはとても大切なことだし、市全体で見直していかなければならないことだと感じています。

総合教育会議の場は教育委員会だけではなく、私たち市民全員がお互いに成長することができる、そういった市をつくっていくために、どうすべきかを考える場だと思います。一覧表にあげていただいたものを推進していくためには、人材を含めたどのようなリソースが連携できるのか、必要なものは何なのか、考え始めないといけません。お題目だけで前に進めないのはもったいないと思いますので、より具体的にどういふところでお互い力を出し合えるのかということを含めていけたらと感じました。

【市長】ありがとうございます。

おっしゃるとおり、それぞれの事業を各部署が取り組めば良いというのではなく、これからは横の連携、全体として取り組んでいく視点というのがより重要になっていくと思いますので、これから総合教育会議を進める中でも議論を深めて、様々な連携について議論していければと思います。

【山田委員】ありがとうございます。一覧でどのような事業が行われているかがよく分かりました。

一方で、課題に感じたのが、一つひとつの重点施策について個々のどういった事業として想定するかというのがまちまちである、あるいは、明確化されていないのではないかとことです。

具体的には、「子どもたちが夢を持って学べる教育の推進」を一つの例にとったときに、一覧にあがっているのは、現状の課題解決、あるいは、支援が必要な方々を支援するというものが多いのですが、より夢を大きく持ってポジティブに更に良くしていくという視点も並行してあるべきと思います。また、先ほどの GIGA スクール構想の一環で、デジタルトランスフォーメーションについてご説明がありました。DX というのは、単に ICT を活用することではなく、問題意識を持って創造的に課題解決をしていくという能力を育てるために必要なシステムということなので、そこを目指した教育をしていくという視点も重要です。

また、4の「地域の特色を生かした郷土学習の充実」では、果たして鎌倉の地域の特色とは何なのだろうかということについても、今一度歴史的史実に基づいて考える必要があるのでは、と思います。例えば、鎌倉時代に、世界で最も進んだ文化と言われた南宋の文化が、初めて日本に入ってきた街が鎌倉でした。そこで「禅」と「茶」という文化が南宋から入ってきて、それが後々に京都に行くわけですが、鎌倉が「禅と茶の発祥地」であるということを知らない方も多くいらっしゃいます。この「禅」と「茶」が、スティーブジョブズや、多くの世界的なリーダーたちにインスピレーションを与えて、そこから生まれたの革新性が、現在私たちが享受しているサービス等に繋がっているということも知らない子どもも多いと思います。

資料の一覧にあがっている重点施策を、具体的な事業に落とす時に、どのような事業であるべきなのかという議論が欠けているのではないかと感じています。更にそれぞれの施策がどの目標に向かっていて、現状どこまで達成しているのかが可視化できるような一覧があれば分かりやすいと感じました。

【市長】ありがとうございます。ご指摘のように事業が何を目標、目的にして、また、タイムスケジュールが可視化できるように、資料を整理していきたいと思います。

【齋藤委員】令和2年度から6年度までの教育大綱を改めて見直してみると、私たちが理念として掲げている共に育てていくということを大事にしていけるものだと思います。重点施策を見ると、子どもたちのために、基本目標を実現するためにどうやって取り組んでいけば良いかと考えると、網羅されていることはとても良いことだと思います。そこで資料1、2を考えてみますと、そこから発展するもの、考えていかなければいけないものの関連性を持たせて示されているので、この総合教育会議の場で具体的な話し合いを行い、より深めていければ良いと思います。より良い関連事業となるように、進めていきたいと考えています。

【朝比奈委員】改めて一覧を拝見してみると、私を教育委員として任命いただいた市長の思いはどこにあるのかわかりませんが、4の「地域の特色を生かした郷土学習の充実」あたりを、私の立場をうまく活用して、教育の場に提供できればと考えています。この一覧の鎌倉彫振興事業を例にしますと、鎌倉彫という鎌倉の伝統工芸は誰もが知るものではありませんが、実際にはなじみが深いものとは言えません。ただ、お寺などでは当たり前のように昔から使われていて、そういったものもぜひ子どもたちに知ってもらいたいと思います。

能狂言鑑賞は具体的にあげられていますが、私が常に悩ましく思うのは、教育現場に宗教的なことを表現するのは嫌われる、ルールに反すると思われるケースもありますが、先ほど山田委員がおっしゃられたように南宋文化の禅と茶というのは、鎌倉という街を表現するのに欠かせないものだと思いますので、禅体験をしていただくのも一つだと思います。文化財として鎌倉国宝館や歴史文化交流館でも触れる機会があると思いますが、仏教も含めて、宗教的な体験として難しいのであれば、文化財として触れる機会をもっと増やしていきたいと思います。

京都や奈良は別として、日本の市町村の中でも文化財を保有する規模は、鎌倉市という規模で考えると相当な割合であると考えます。こういった恵まれた環境を子どもたちは知っているのだろうか、体験することはあるのだろうか、宗教離れと言われて久しいですが、宗教的なことに抵抗があるのであれば、ひとつの大陸からの大事な文化、あるいは、教えであり、人格形成を成すほどの当時の教育手段だったと思うので、それを知るといのはとても大事なことだと思います。

一覧を拝見すると教育はどうしてもお金がかかることばかりなので、文化財をうまく活用して、皆が鎌倉に来てくれて、お金を落としてくれるようになれば、税収入確保に繋がりますので、もっと文化財に関わっていきたいと思います。

【岩岡教育長】委員の皆様からいただいた意見を総合していきますと、今回は第1回の会議ということもあり、教育大綱とそれに紐づいた施策を網羅的に整理するところから出発しましたが、個別のトピックを具体的に価値のある議論をしていきたいというご意見が多かったと思います。私自身もそのように思いまして、特に市長部局と協力して進めていくことで成果があがるもの、効率性が高まるものがたくさんあると思います。ICT 政策もそうですし、コミュニティ政策や学校施設等もそうだと思います。個別具体的にトピックを取り上げて、今後の教育委員会、市長部局の進め方について、スケジュール的にも整理してお互いに発表する中で、ここは連携していこうとか、ここは哲学を合わせていこうとか、そういった議論が今後できれば、より実りが多い総合教育会議になるのではないかと思います。

例えば、ICT の活用について今日の教育委員会の会議でもご報告しましたが、教育委員会としては ICT を活用して、タブレットと子どもたちが向き合うことで教育が良くなるというイメージはなかなか保護者の皆様もわからないと思うのですが、例えば教室の中に大型ディスプレイがあって、そこに Wi-Fi の電波が飛んでいて、子どもたちがタブレットを持っているという状況を使えば、これまで板書を書き写すという作業が授業の中で時間が長かったのが、子どもたちが意見をまとめたり、アウトプットしたりする時間をどんどん増やしていけるのではないかという考え方で ICT 環境の整備を進めています。

先日学校訪問で各校回りましたが、小学校高学年と中学校2・3年生にはすでにタブレットを配備しているので、使用している教室もありました。例えば初歩的などころでは、社会の調べものに子どもたちはタブレットを自由に活用しています。本で調べている子どももいれば、本とタブレットを併用している子どももいれば、タブレットだけで調べている子どももいると、使いこなして社会の発表につなげていました。もっと進んでいるところでは、自分自身のことを発表するのに iPad に入っている Keynote を使って、プレゼンテーションを作るというようなことも行っています。これまで「仮面ライダーが好きです」ということを紙に書いて、「なぜか」とと具体的に紙で一生懸命みんなの前で発表していたのが、事前に自分の家で好きな仮面ライダーの画像を探してきて、好きな場面の音を拾ってきて張り付けて、発表する材料を子どもたちが工夫して作っているというような姿も見られます。

また、特に進んでいる教室ではビスケットというプログラミングのソフトを使って、プログラミングの授業を始めているところもあります。こうしたアウトプット重視の授業を少しでも広めていくということで、教育委員会としては進めています。

また、特に課題を抱えていて、なかなか学校の学習についていけないお子さんとか、一人ひとりに対応するという観点では、通常の学校では進んでいる単元というのは学級で1つですので、前の単元が分かっていたとしても、その子のためだけに戻るのは難しいですが、今後導入しようとしている AI ドリルを活用していけば、例えばその子が分数の通分を理解できていないのは、戻っていけば実はこの割り算が分かっていたといった、AI が自動的に戻って子どもたちが復習でき、学校の授業についていけるといったようなものができるということを考えています。

それに向けて年度末までに学校のタブレット、Wi-Fi、充電庫、大型モニターの整備を進めています。

何か「デジタルに置き換えれば良い」といった、ICT の活用ではなく、学びの質自体を変えていくというのが DX の考え方にも通じるものだと思います。今後はそういったものを進めていくとインターネット回線のトラフィックが混雑したりとか、教育委員会で考えていかなければいけない中で、市役所の DX の政策と協力して進めれば良いことがあるのではないかと考えています。

まさに、個別具体のトピックを取り上げて、協力の道筋を探っていくというのが、今後の総合教育会議の進め方としては非常に良いのかなと皆様のご意見を伺って感じたところです。

【市長】 ありがとうございました。

皆様にご意見をいただき、教育長にまとめていただきました。今年度の総合教育会議を進めるうえで、今皆様からお話しいただきました視点を大事に進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは次の協議・調整事項に移りたいと思います。

「学校施設の計画的な整備に向けて」を議題といたします。事務局から説明をします。

【事務局(教育部次長)】 それでは、「学校施設の計画的な整備に向けて」について、説明いたします。本件につきましては、これまでも現状報告等をさせていただいてきておりますが、改めて、鎌倉市の状況について、まず、人口、公共施設、インフラ等の更新、財政の観点から説明をさせていただきます。

第4期基本計画による推計値では、右肩上がりであった人口増加の時代から、人口減少社会の時代に移っていきます。それと同時に、年少人口、生産年齢人口も約3割から5割減少している状況です。

続いて、公共施設(建築物)の将来の更新コスト試算では、今後、一斉に更新の時期を迎えるということで、そのまま更新していくと、40年間で約2,000億円、年間で約50億円の経費が掛かる試算となっています。

次の3ページの都市インフラについても、インフラ管理経費の予測では、道路や公園整備等に係る一般会計、また、下水道の整備に係る特別会計は、40年間で合計約3,890億円、年間平均で約98億円の経費が掛かると試算しています。

資料は4ページになりますが、このように、公共建築物、都市インフラの更新にかかる経費、年間約147億円を、建築物の統廃合や予防保全型の維持保全という手法に変えつつ、約31%削減して、約101億円で、今後、更新していくという公共施設再編計画と社会基盤マネジメント計画に基づいて、これを目標に取り組みを進めていく状況になっています。

次に、5ページの本市の財政状況ですが、冒頭に説明した人口減少や法改正、社会環境の変化に伴う、税収の減とともに、本市で支出している扶助費が、年々増加している状況で、計画的な事業を推進していくための投資的経費が先細りの状況となっています。以上が、鎌倉市の現状になります。

続いて、本市の学校の状況ですが、6ページの鎌倉市立小中学校の児童生徒と学級数の推移ですが、高度経済成長期の人口増とともに児童生徒も増加し、学校の建設についても児童生徒の増加に伴い行われてきました。しかしながら、人口減少社会の時代に移り、児童生徒も徐々に減少している状況ですが、学校数はそのままとなっています。

次の7ページの学校施設の現状ですが、築50年を超えている学校は8校、その他の学校においても築40年から30年となっています。文部科学省の長寿命化の目標年次80年を目途に、現状に合わせた教育環境の整備と併せて長寿命化の検討を進めていくこと、一斉に集中して改築等の時期を迎えることとなります。

最後に8ページに示しました、今後の学校施設の整備の考え方ですが、学校を取り巻く環境が著しく変化していく中で、少人数学級の指導体制の整備、空調設備やトイレ改修などの施設整備、通信環境や少人数指導体制への対応、また、学校施設の長寿命化計画の策定などの国の動向、また、鎌倉市の公共施設、学校施設整備等に関する各種行政計画とともに、土砂災害、津波浸水、洪水浸水の各区域内の学校のあり方も含めて、今後の学校施設の整備の考え方を示していくこととなります。

このような状況を踏まえ、今年度からスタートしました、第4期基本計画では、学校の改築や長寿命化改修について、公共施設再編計画を踏まえ、学校の適正規模、適正配置等を総合的に判断したうえで、計画的な整備に着手することとなっており、令和2年度からは学校整備計画の検討を始め、令和5年度に学校整備計画を策定する予定となっています。

このため、学校整備計画の検討、策定は、鎌倉市の現状、学校の現状等を踏まえつつ、地域住民、保護者等と丁寧な合意形成を図りながら進めていく必要がありますので、教育委員会、市長部局が連携し、役割分担のもと取組を進めていきたいと考えておりますので、本日、連携、協力した取組の方向性について、ご協議いただきたいと考えております。

【市長】 この点についてご意見等があればお願いします。

【下平委員】 これこそ本当に大きな問題だと思います。教育委員会だけでは成し遂げられるものではないと思います。市民の方々にしっかりとご理解やご協力をいただくためにも、この地域には児童生徒が少ないから学校を減らしますという段階の話ではなく、5年後、10年後の鎌倉市の全体像を示すことが重要です。大人たちの変革、トランスフォームが大事で、全く社会が変わっていくのだという視点の下に、具体的な俯瞰視した未来像のようなものが明確にする必要があります。学校設備だけでなく、それに伴う市民全員の役に立つ施設を複合化するのでしょうし、そういうものを明確にしたうえで話を進めないと、一つひとつの老朽化していく施設に手当てしていくのでは、実に無駄な時間とお金が出てしまうと思います。早く俯瞰視した像を示し、夢のある未来、5年後、10年後の具体的な未来があってこそ、だからそのために学校施設だけでなく鎌倉市の施設の変化が理解されるでしょう。総合教育会議は子どもも大人も含めたお互いが成長できる未来を考えられる会だと思うので、そういう論議、具体化明確化が必要な視点ではないかと考えます。

【市長】 ありがとうございます。我々も公共施設再編計画を進めるには住民の皆様には十分にご理解をいただくことは非常に重要であるということは常々感じています。下平委員のおっしゃられたことは非常に重要なことであると考えています。具体的に未来像というのはできているものではありませんが、少しずつ枠組みを作りながら進めているところでありますので、そういうところからの教育のあり方、また、そこからくる学校についての議論を深められるような素材を作っていきたいと考えています。

【岩岡教育長】 私は文部科学省で、学校規模適正化の手引きを改定したときの担当でしたので、全国の様々な都市の公共施設再編計画や学校規模の適正化の事例を見てきましたが、うまくいった事例は、うまくいったというのは行政の視点ではなく、地域住民の皆様にとっても良い学校になったという意味ですが、子どもたちにどういった教育活動を提供したいか、また、学校を核としてどういった地域を作っていきたいかということから出発をして、しっかりと地域の皆様を入れて議論をして、こういう学校をみんなで作ろうというのを、賛成反対ある中で、地域で議論を尽くしたという腹落ちをしている自治体は良い学校ができていると思います。公共施設の再編はマクロで見たときには財政的な考え方も非常に重要ですが、そこでどういった教育的価値を生み出したいのかということをしつかりと考え、地域の皆様や子どもたち、行政もこういう学校だったら作りたいという議論を進めていければと思います。また、そういった議論を行う総合教育会議は非常に適切な場所だと思うので、引き続き議題にあげて議論ができればと思いますので、ご相談させていただきたいと思います。

【市長】 ありがとうございます。こちらのテーマにつきましても、今後も総合教育会議の場で、積極的に取り上げて議論を交わしていきたいと考えています。

その他については何かありますでしょうか。

特に無いようでしたら、次回の開催についてですが、次回の開催についても含めて協議させていただきたいと思います。

それでは、本日の合意された事項等について、確認をしたいと思います。事務局から、確認をお願いします。

【事務局(共創計画部次長)】 本日議論された中で、重点的に取り組む施策について、事業の方向性、目的、成果が見えてこないというご指摘がありましたので、次回までには皆様に分かるように示していきたいと思います。

また、学校施設の計画的な整備については、総合教育会議の中で進めていくのが良い議題であるのご意見がありましたので、引き続きして取り上げていきたいと思います。

【山田委員】 私が先ほど発言した内容がうまく伝わっていないようでしたので、もう一度申し上げます。重点施策にあがっている4点に向けて、具体的にどのような事業に落とし込まれるべきかということ、今一度議論していきたいと思っています。

例えば、地域の特色を生かした郷土学習というのは、鎌倉市にとってはどういうものなのか。夢を持って学べるというのはどういう学びを指すのか。一覧に示されているのはすでに進められている事業だと思います。一方で、現状では不足している点もあり、重点施策にあがったという経過がありますので、何が欠けているのか、他にどういうことが必要なのかという点を、どういう形が良いか分かりませんが、各自考えて事務局に寄せて、その中で精査するとか、加えたり差し替えたりすることが必要なのではないかと思います。

【市長】 ありがとうございます。山田委員から指摘の部分も含め、市の方で考えている部分を可視化させていただき、足りない部分や追加する部分をこの中でご提案いただいたりして、形にしていく場にしていけたらと思います。

【下平委員】 もう一度再検討いただきたいのが、先ほども申し上げましたが、1番のところでは、関連事業には教育部だけがあげられています、教育委員会だけでできることであれば、日々議論して尽くしているわけで、そこだけではとても進まないことが多々あります。GIGA スクール構想の推進では情報推進部門を所管している市長部局も関連しているし、子どもたちが夢を持つためには大人たちの幸せ、心の安定が重要であるし。そうすると多くの部門が関連してくるでしょう。常々申し上げているようにそれぞれの仕事を分担してやっているだけでは無駄も多いし、先に進まないという状況になっています。縦ぐしと横ぐしがちゃんと刺さるということは非常に大切なので、もっとどういったところでリソースを共有できるのか、助け合えるかというところが見えてくると良いと思います。教育委員会だけの所管としてあげられると、話が総合教育会議でなくなってきます。教育委員会でやれることはしっかりと私たちも話し合っただけ進めようとしていますが、どこと繋がれるか、助け合えるのかをお互いに探っていけると非常にありがたいと思います。

【教育部長】 下平委員ご指摘のとおり、一例として子どもたちが夢を持って学べる教育の推進については教育委員会だけの事業が羅列されておりまして、先ほどの教育長からの発言にありましておとり効率性とか成果をどうあげてくのかというためにトピックをどういうふうに取り上げていくのかという話の中で、逆に教育委員会としてこれだけ進めていたとしても市長部局のこういった部分が足りないからお願いしたいとか、そういうところについては、事務局の共創計画部と調整と図りながら、更なる連携した形で調整を図りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【山田委員】 あと一つ提案です。財政が厳しくなっていたり、教員の労働時間が長かったりいろいろな課題がある中で、教育委員会の業務や学校運営の体制も、大きく見直し、進化していく時代が来ていると思いますので、総合教育会議の場も使って協議していきたいです。また、デジタルトランスフォーメーションに向かう第一歩として、この会議の在り方も、サステナビリティの観点から、ペーパーレスにするなど再考して、時代に合わせるだけでなく、先端をいくというくらいの気概で取り組んでいただきたいという提案です。

【市長】 ありがとうございます。本来何が必要かということをきちっと共有する中で、そこに集中できるような環境づくりへのご提案だと思いますので、我々も漫然と事務を進めるのではなく、その視点を持って、今後も進めてまいります。また、この場でも様々な事務の効率化や新たな取組として、より良い形ができるものはどんどん取り組んでいきたいと思いますので、引き続きご提案いただきたいと思いますので、宜しくをお願いします。

今のことも含めて確認ということで、事務局よろしいでしょうか。

【事務局(共創計画部次長)】 今お話しいただいたとおり、事業の方向性など分かりやすくまとめていきたいと思っています。また、会議の運営にはタブレットを活用し、ペーパーレスで進めていければと思います。また、学校の計画的整備については、会議の中で引き続き議論していただきたいと思っています。

【市長】 一つひとつ進めていきたいと思っています。

これをもちまして、令和2年度第1回鎌倉市総合教育会議を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。